

広報活動

旭硝子財団およびその事業活動をより広く知ってもらうため、12月10日(木)から12日(土)にかけて東京ビッグサイトで開催されたエコプロダクツ2015で、AGCグラスプロダクツ株式会社の協力を得て、ブループラネット賞パンフレットや環境危機時計の紹介チラシ、環境危機時計オリジナルキャラクターのコミックなどの資料配布を行いました。

また、11月21日に行われた、とちぎ・市民「環境交流会」2015の子ども向けエコ体験教室でも参加した子供たちにコミックを配布いただきました。



エコプロダクツ2015



エコ体験教室(とちぎ・市民「環境交流会」2015)

新たな広報活動の展開として、ブループラネット賞受賞者記念講演会等の動画のYoutubeへの公開、ブループラネット賞と環境危機時計のツイッター、フェイスブックを開始しました。

「ブループラネット賞」ツイッターでは、ブループラネット賞認知度向上の一環として、表彰式典までの期間に歴代受賞者の紹介を行い、早々にいくつかのフォローを得ました。

環境危機時計ツイッターでは、2016年4月のアンケート調査開始に向けて、1992年から2015年までの環境危機時刻を紹介していく予定です。

また、環境危機時計キャラクター「ぐりんとウッド」のツイッターも開始しました。コミック、環境危機時計等の紹介を含め若年層へのアプローチを考えた内容をツイートしていく予定です。



「環境危機時計」ツイッター：@kankyokikidokei



「ブループラネット賞」ツイッター：@BPP_Japan



「ぐりんとウッド」ツイッター：@clock_gw

— 環境危機時計 オリジナルキャラクターコミック — ぐりんとウッドの水の王国だいぼうけん 全13巻

環境危機時計を通じた環境意識の拡大を目指し、特に若い世代を主なターゲットとしたシリーズとして2013年に第1巻を発行した「ぐりんとウッドの水の王国だいぼうけん」は、12月発行の第13巻でシリーズが完結しました。ぐりんとウッドの冒険の旅を読むことで、地球に起こっている環境問題がわかるようなストーリーになっています。コミックは、当財団ホームページからご覧いただけます。

冊子をご希望の方は、お送りいたしますので、当財団ホームページ(<http://www.af-info.or.jp>)のお申込みフォームからご応募ください。



助成研究便り

2015年度採択 環境研究プログラム

課題名：シカによる摂食圧力を受けた森林における鳥類群集の景観レベルの動態と回復に関する研究
助成金受領者：千葉大学 大学院園芸学研究所 准教授 梅木 清
(助成総額 370万円, 助成期間 3年間)



東大秩父演習林における調査活動
設置されたシカ排除柵の内外で植生比較を行う(上)、
飛翔性昆虫を捕えるマレーストラップ(下)。

近年、日本各地の森林域でニホンジカの個体密度が増加しています。森林植物群集に高い摂食圧がかかり、生態系に様々な影響が出ていることは、報道等でご存知のことと思います。下層植生の減少や枯死木の増加は、食物とする昆虫相や生息場所の変化を通して鳥類群集にも変化を及ぼします。

本研究では、少数の地点で調査するのではなく、景観レベルの空間スケールで多数の影響調査試験地を設置し、シカの食害が鳥類の生息にどのような影響を与えるかを調査します。また、このように大きなスケールで森林生態系の変化を再現するシミュレータの開発も目指します。

現在、フィールド調査として、東大秩父演習林においてボイスレコーダによる季節ごとの鳥類相の調査、マレーストラップによる飛翔性昆虫相の把握を行っています。このデータに基づいて、森林生態系シミュレータを作成し、ニホンジカ個体数管理指針の提示につなげる予定です。それにとどまらず、このシミュレータは鳥類を指標とした森林生態系の崩壊レベル評価法として使えるものと考えています。



公益財団法人 旭硝子財団

〒102-0081 東京都千代田区四番町 5-3
サイエンスプラザ 2階
TEL (03) 5275-0620 FAX (03) 5275-0871
URL <http://www.af-info.or.jp>
E-MAIL post@af-info.or.jp

af News

2015年(第24回)ブループラネット賞 表彰式典並びに祝賀パーティー

2015年(第24回)ブループラネット賞の表彰式典が2015年10月14日、パレスホテル東京において開催されました。本年度の受賞者は、英国のパーサー・ダスグプタ教授と、米国のジェフリー・D・サックス教授です。

ダスグプタ教授は、世代間の公平性と持続可能な開発の二つの概念が同等であることを示し、開発経済学および環境経済学を統合しました。持続可能な経済発展のための新しいストック指標である包括的富指標を示し、貧困や環境問題の解決の理論と実践の処方箋を世界へ発信し、広く影響を与えて来ました。サックス教授は、開発途上国の経済再建に輝かしい実績を残してきました。独自の学際的、革新的な「臨床経済学」を用い、学者、実践者、政府、国連の上級顧問として、人類の平等を推し進め、ガバナンス、貧困、公衆衛生、教育、環境における諸問題の解決を推進し、持続可能な開発に多大な貢献をしてきました。

表彰式典には秋篠宮同妃両殿下のご臨席を賜り、各国大

使をはじめ、政官界、学界、経済界を代表する数多くのご来賓にお集まりいただきました。

石村和彦理事長の主催者挨拶に引き続き、林良博選考委員長より各受賞者の紹介がなされ、その後、理事長より受賞者への贈賞が行われました。

秋篠宮殿下からお言葉を賜り、その後安倍晋三内閣総理大臣のご祝辞が菅原都郎経済産業事務次官から披露されました。受賞者の国を代表して、ジョナサン・ジュートムソン在日英国大使館一等書記官ならびにキャロライン・ケネディー在日米国大使がそれぞれご祝辞を述べられました。それぞれのご祝辞では、各受賞者の地球環境問題に対する熱意と業績が讃えられました。

式典に引き続いて行われた祝賀パーティーは、ご来賓の方々からの祝福で和やかな雰囲気になりました。ダスグプタ教授とサックス教授の周りにはたくさんの方々が集い、優れた業績を讃える言葉が述べられました。



ブループラネット賞表彰式典にてお言葉を述べられる秋篠宮殿下



石村理事長とパーサー・ダスグプタ教授



ジェフリー・D・サックス教授

パーサ・ダスグプタ教授



人類の自然との関わりは私たちの暮らしの中で最も重要なものです。私たちは自然との関係を修正する緊急の必要性に迫られていますが、実際のところその課題への取り組みを避けているのが実情です。ブループラネット賞を主催している旭硝子財団は毎年この残念な現実を世に訴え、大規模なもの、小規模なものを含めて、環境問題に対する世界の関心喚起に努めています。地球規模の環境問題が社会の関心を集めるということは理解できますが、「大規模な問題」は無数の「小規模な問題」が集まって発生しています。重要なのは、人類が自然と調和して暮らしていくためには、私たち一人一人が行動を起こさなければならないということです。私たちが生活を送っていく中で、個人のレベルで自然とどうやって付き合っていくべきなのかを理解することが、今私たちが直面している問題の解決につながるために必要な第一歩です。私はこれまで長年の研究の中で、一般世帯レベルでの貧困と富が自然に個別具体的な影響を及ぼしているメカニズムの理解に努めてきました。また、マクロ経済的推論が、経済政策が環境に影響を与えるメカニズムに対する私たちの理解(もっと正確に言えば、理解の欠如ですが)にどのような影響を及ぼしているのかという問題に関する説明体系を構築しようと努めています。さらに、私はもちろん、それとは反対の影響、つまり、深刻化する食糧不足に社会がどう対応しているのかという問題についても明らかにしようと努めています。この双方の理解努力を通して、具体的な文化的・歴史的影響を解明することができます。それによって人類と自然との関わり合いについて時間的にも空間的にも具体的なイメージを構築することができるようになります。そして、それは、私が貢献したいと努めている研究調査が非常に骨の折れる作業である理由の一つです。だからこそ、私は長年の時間をかけて、生態学者や環境科学者だけでなく、進化生物学者や人類学者、政治学者、栄養士、疫学者、道徳哲学者などの研究成果を借用する必要があるのです。従いまして、私が社会全体に伝えようとして努めている視点が認められて、ブループラネット賞を受賞することができたのは、私にとってたいへんな栄誉であるとともに、大きな喜びでもあります。また、私がブループラネット賞を受賞することによって、私自身教えを受けた恩師であり、友人でもある偉大な社会思想家である故宇沢弘文教授の志を継ぐことができたという意味で、受賞の栄誉にはより一層大きな意義があります。宇沢教授が今日この場におられないのは本当に残念ですが、残された妻の宇沢浩子さんがこの場に同席し、私たちとこの時間を共有することができたので、たいへん嬉しく思っています。

ジェフリー・D・サックス教授



今回の受賞のタイミングは私にとって特別な意味を持ちます。私が国連事務総長の顧問を務めたミレニアム開発目標15年の最終年であり、新たな持続可能な開発目標(SDGs)がスタートする時期でもあります。私が思うに、これは世界的協調の新しい、また重要な時代の始まりを告げるものであり、これをもとに、私は潘基文国連事務総長の顧問を継続して務めることになります。

1992年に旭硝子財団によって創始されて以来、ブループラネット賞は持続可能な開発を追求する世界中の人々の指針およびインスピレーションとなっています。持続可能な開発では、人間として目標を高く持つことが私たちに求められます。私たちは、平和かつグローバルな協調を選ぶことが求められています。ただ成長を追い求めるだけではなく、真の経済発展と社会正義および環境的持続可能性が融合した、より完全なアプローチへと、自らの経済的ビジョンを拡大するよう私たちは求められています。ブループラネット賞は、持続可能な開発という世界的運動をリードする多くの優れた方々に贈られてきました。このような方々の仲間に入れていただき恐縮するとともに、感激しています。

ミレニアム開発目標から私たちが学んだのは、世界的に合意された目標は違いを生み出せるということです。このような目標は、多大で共有された意義を持つ物事に世界の目を向けるうえで役立ちます。世界銀行の直近のデータによれば、世界の貧困率は2000年の37.1%から現在は9.6%まで減少していると推測されます。人類史上初めて、極貧の割合が10人中1人未満となりました。2世紀前に工業時代が始まった時点ではほぼ10人中10人が極貧という状態でした。ミレニアム開発目標は、この進歩に寄与しました。

とはいえ、世界経済がきわめて不平等、不安定で環境的持続可能性を欠いている限り、これらの成果も不十分であることを私たちは理解しています。人類が深く分断され、破壊的な紛争で生命や資源を浪費している限り、上記の成果は脆弱なままです。したがって、ミレニアム開発目標の成果を確保し、SDG 1が求めるように極貧を2030年までに撲滅する努力を続けるうえで、新たなSDGsは欠かせません。

グローバルな問題解決の重要性の賛同として、また新しい持続可能な開発目標の可能性に対する確信の声明として、私は今日この素晴らしい、また寛大なる栄誉をお受けしたいと存じます。平和な世界を目指して、また持続可能な開発を追求する中で、ブループラネット賞の崇高な理想をともに達成しましょう。

2015年(第24回)ブループラネット賞



》》》 受賞者記念講演会 《《《

10月15日に東京・国際連合大学ウ・タント国際会議場において、受賞者の記念講演会が200名を超える方々が参加して開催されました。

最初にダスグプタ教授が「持続可能な開発と諸国民の富」の演題で講演され、続いてサックス教授が「SDGsの達成に向けて」の演題で講演されました。



休憩の後、受賞者のお二人に慶応義塾大学経済学部、大沼あゆみ教授、国連環境計画・金融イニシアティブ特別顧問の末吉竹二郎氏を交えてパネルディスカッション、質疑応答が行われました。コーディネーターの巧みな対話と進行によって、会場の参加者からも多くの質問が寄せられ、中身の濃い活発な質疑応答が展開されました。受賞者の方々の業績に対する理解が深まると共に、私たちが地球環境問題解決に向け取り組むにあたっての行動の指針を学ぶ貴重な機会となり、充実した3時間となりました。なお、当日の配布資料および講演の様子は、当財団ホームページからご覧いただけます。

》》》 環境省表敬訪問 《《《

10月13日にダスグプタ教授とサックス教授が環境省を表敬訪問し、関荘一郎環境事務次官と懇談しました。環境、経済、行政にわたる幅広い領域の意見交換が行われました。



受賞者紹介 林良博 選考委員長

パーサ・ダスグプタ教授

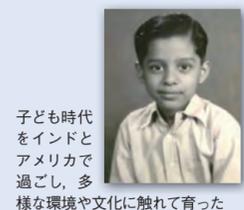
ダスグプタ教授は環境の劣化、資源の枯渇、経済成長などを扱う環境資源経済学および途上国の開発と貧困を扱う開発経済学の二つの領域の統合を目指して世界規模の研究に貢献された類い希な経済学者です。環境破壊が進む中、今や多くの人々が、人類を育ててくれた計り知れない価値を有する自然を、次の世代に毀損すること無く伝えてゆく事が我々の責務であると考えています。その思いを遂げる理念としてブルントラントは28年も前に、『将来の世代のニーズを満たす能力を損なうことなく、今日の世代のニーズを満たすような開発』として同世代および世代間の公平性を考慮した『持続可能な開発』を定義しました。しかしながら、ダスグプタ教授の研究が世に出るまで、この『世代間の公平性』を包含する『持続可能な開発』の定義について経済学的に満足な理論がないまま個別の開発目標が多々提示されてきました。今ではダスグプタ教授がその著書『サステナビリティの経済学』や『包括的富指標』に経済学理論として、『持続可能な開発』を明瞭且つ些細に記述する進化を遂げ、その測定可能で実践的な経済指標は世界の注目を集めました。特筆すべきは『世代間の公平性』に着目し自然を含む社会の富を維持・拡大し、次世代へ伝える為の経済学的な要件を明らかにし、更にこのことが同世代の公平性も包括させた『持続可能な開発』と同義であることを示されたことです。その理論の中では市場に委ねるのではなく、社会システムとしての政府の役割が重要視され、理論の適用がインド政府により既に始められ実践に付されています。



ジェフリー・D・サックス教授

サックス教授は世界中の貧困層の増大を憂慮し、この問題に取り組むに当たって、国際機関のエリート・エコノミストが一般的に行う貧困国の経済改善処方箋の問題点を徹底的に点検しました。そして、貧困の罟から脱却するためには、貧困国が援助により、経済発展の最初の一步を踏み出すことが重要であることを説き、これに基づく提言を行い、数々の国を財政破綻から救ってきました。教授は、国や地域の政治制度、地理、地政学的条件、文化など、個別の要素をつぶさに分析し、適切な援助を実施して行く『臨床経済学』という、国や地域の実情に促したアプローチを旨とした独自の手法を展開し、成功をおさめています。アフリカ諸国をはじめとする国々において、貧困に伴う社会の分断や教育への無関心、財政赤字の増大、エネルギーの枯渇、環境危機の深刻化など、人々が直面する様々な重い課題に、国連などの国際機関と協力しながら効果的な対策を提案し、実践されています。教授は、西暦2000年から始まったより良い世界を築くための国連の『ミレニアム開発目標』の策定段階からその実施に至るまでの中心的存在として活躍されました。また今年以降の15年間の目標となる国連の『持続可能な開発目標』においても同じく重責を担われ、国際社会が一丸となって取り組むべく、強力な後押しをされています。今や先進国においても貧困層の増大が報告されており、教授が提唱する、持続性・公平性を達成するための理念である、人類と自然への「共感」-mindfulness(マインドフルネス)-の促進が、人類が真の豊かさを取り戻すための目標として、より現実味を帯びてきています。

パーサ・ダスグプタ教授



子ども時代をインドとアメリカで過ごし、多様な環境や文化に触れて育った



ケンブリッジ大学で経済学を専攻



2012年 リオの地球サミットで「包括的富指標」発表



奥様と一緒に

ジェフリー・D・サックス教授



少年時代に目の当たりにしたアフリカ系アメリカ人の公民権運動に強い影響を受けた



ハーバード大学を最優秀の成績で卒業し、28歳で史上最も若い正教授に就任



貧困撲滅を目指す国連のミレニアム開発目標を牽引



奥様と一緒に